令和7年度 宮崎県立高鍋高等学校 学年末反省

学校経営方針 （スクールミッション）	○文武両道の精神をうたい、真善美を理想とし、師弟同行のもと、「誇り高き高鍋プライド」を追究していく学校 ○「国づくりの基本は人材育成である」という明倫堂の精神とこれまでの歴史や伝統の流れのもと、新しい時代を主体的に切り拓く人材を育成する、地域教育の拠点を目指す学校 ○学問はもちろんのこと、文化・芸術・スポーツを通じて文教の実を上げ、地域の魅力と豊かさの発掘や地域の活性化への貢献を目指す学校
本年度の 重点目標	1 一人一人の進路実現に資する確かな学力の涵養 ①計画的なキャリア教育の推進に基づく、進学や就職等、自分のライフプラン実現に向けた学力の養成や資格取得等に挑戦する生徒の育成。②生徒自身が学習姿勢を改善する契機となる授業や評価の在り方についての研究。③生成AIの活用など、適切なツールを選択し学力の定着や向上に取り組む生徒の育成。 2 豊かな心の醸成と基本的生活習慣の確立 ①自他の命と人権を尊重し、互いを認め合える生徒の育成。②師弟同行のもと、環境美化や環境整備を進んで行う生徒の育成。③自然に心からの挨拶ができ、規則正しい生活習慣の確立に向き合う生徒の育成。 3 自律的な自己の確立と文武両道の推進 ①生徒が自ら求めて、学問、部活動、諸活動に取り組めるための段階的環境整備。②目標達成に向け、生徒が適切な方策・手段を模索し実践する場としての文武両道の推進。③生徒自身が自己有用感・自己肯定感を育める教育環境の整備。 4 地域に開かれた魅力と活力ある学校づくり ①児湯学友団コンソーシアム（KGC）の活用による地域拠点校としての役割推進及び児湯5町との連携強化。②地域の小学校・中学校や外部機関との積極的な連携や広報活動のさらなる充実。③PTA組織や同窓会組織との効果的かつ協働的な活動の推進。 5 教職員の資質向上 ①計画的な研修受講による各種指導力（教科指導力、生徒指導力等）や危機管理力の向上。 ②「明倫GP」の養成を指針とした、自走する生徒が育つ「高鍋メソッド」の確立。③同僚性・協働性・OJTの推進による教職員のチーム力向上。

評価のポイント
・自己評価の項目や指標は適切に設定されているか。
・自己評価の結果は指導等を元にした妥当なものであるか。
・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか。

評価段階
4：期待以上　3：ほぼ期待通り　2：やや期待を下回る　1：改善を要する

校務分掌	学校の重点目標	各部・学年・科の重点目標 ［上の表の学校経営方針との整合］ ［各部/学年/科のミッションを念頭］	評価指標（手段・ゴールイメージ） ［ミッション（努力事項）を達成したといえる状況］ ［上の表の評価項目との整合］	具体的な対策	学年末 評価	学年末 成果及び改善策 （○成果あり　●次年度にむけた課題）	学校運営協議員の御意見 評価	学校運営協議員の御意見 具体的な御意見（空欄は特記なし）
教務部	1 一人一人の進路実現に資する確かな学力の涵養	・計画的なキャリア教育の推進に基づく，進学や就職等，自分のライフプラン実現に向けた学力の養成や資格取得等に挑戦する生徒の育成。	・各種検定受検生徒数増加 ・GTZボリュームゾーンのランクアップ	①には職に就くということを念頭に，そこに必要な「確かな学力（Liberal Arts）」や「学び続けようとする姿勢」を探究型学習等の新時代に対応した学習方法を通じて身に付けられるように授業展開の工夫改善を試みる。 ②生徒の実情に合わせつつも，高鍋高等学校として在りたい姿を具現化する教育課程の編成。	2.8	●対外模試の結果を見る限り，教科科目の特性はあるが，単元テストと定期テストの相互補完性を十分に数値化出来なかった1年であった。1週間何の学校行事もなく，月曜1限から金曜6限までが普通授業という「落ち着いた」学習時間の確保がなかなか難しかった。 ●「幅広い成績層」への対応がキーワードであった昨年度までから低達成度層への対応を軸に据えないといけないようにⅠ学期に引き続き2学期も成績不振生徒が多く，「確かな学力」とは何なのか，またそれを自分のものとするには何をどうすればよいのかを生徒一人一人が考え，行動に移すところにまで持っていけていない印象を拭えないままであった。単元ごとの振り返りと授業進度との兼ね合いを含めた授業の工夫改善の更なる必要性を感じた。 ●学年、学科関係なく、学習するという雰囲気作りが必要。 ○学年単位で成績不振生徒だけではなく，キーとなる学力層へのアプローチを補習という形式だけではなく，東大講座など「自走」を促すステップを改めて意識させる取り組みを提供し，生徒の自発的学習行動を高めようとしている。 ○授業研修等を機に教員側の授業改革の意識が芽生えはじめた。 ○授業研修を機に、先生方の意識が変化し、一方通行になりがちだった授業から、生徒の主体的な学びを重視した探究型の授業へと、授業実践が着実に変わりつつあるように感じられる。	3	
	4 地域に開かれた魅力と活力のある学校づくり	・地域の小学校・中学校や外部機関との積極的な連携や広報活動の更なる充実。	・オープンスクールへの中学生，保護者参加者数増加 ・公開授業への参加者数増加 ・外部各種アンケートにおける建設的意見の取り入れ	①教職員が行う授業の振り返りの一環として，「外からの目」を常に意識し，公開授業やオープンスクールを通して「見せる（魅せる）」だけではなく，そこから得られた声に真摯に向き合い，より地域に根差した学校と呼べるような環境づくりを行う。	3.3	○オープンスクールや授業公開などの外との連携を図る学校行事は盛況のうちに行われた。しかし，ターゲット・エイジと実際の来校者とのギャップがあるなどの消化不良があったことも事実である。また，当日は別用のため参加出来なかった中学生のために係の職員を中心に別日設定でミニ説明会のようなものを実施してくれるなどかなりの負担もかけてしまったが，その参加中学生が今春の入試を受検してくれていることを願ってやまない。 ○稚拙な部分もありながらも生徒主体で取り組んだ部分は中学生に好印象を与えたのではないかと考える。今後の本校の在り方も成績重視ではなく、社会性や興味関心を活かす校風に変えていくのもいいかもしれない。 ○今回の推薦入試では、昨年度と比較して受験者数が増加しており、オープンスクール等を通して本校の魅力が着実に伝わっている成果だと考えられる。本校は、魅力と活力にあふれる学校へと確実に近づいていると感じる。 ●学科やコース別ではあれど，年間計画には予定されていなかった行事が年度末まとめのような形で入ってきたので，シラバスにも入れておいてもらう必要性を感じた。 ●様々な行事が組まれているが、生徒・職員含めてその意味や意義を理解できておらず、多忙感ばかりが募っている印象があった。行事の精選は、数を減らすだけではなく、意義や意味を理解する・理解させるところまで求められるのではないか。	4	○児湯地域の小中学校との連携は、その後の進路選択に結びつくため、重要と感じます。 ○魅力発信、特色独自性、部活動
	5 教職員の資質向上	・計画的な研修受講による各種指導力（教科指導力，生徒指導力等）や危機管理力の向上。 ・「明倫GP」の養成を指針とした，自走する生徒が育つ「高鍋メソッド」の確立。	・先を見る力の育成と伝達の場の確保。	①10年来続く本校独自の授業研修を発展的に継承し，「変化することを厭わない」姿勢を養う。また，授業実践を通じて「自己振り返り」を常に意識できる「職業人」としての教職員を全員で目指せるような環境づくりを行う。	2.8	●アドミッション・ポリシー → カリキュラム・ポリシー → グラデュエイション・ポリシーという一連の流れの持つ意味をもう一度考えなければならないと思わされた1年間であった。 ●学校側が生徒の現状と現実的な目標設定を全職員に示した上で、具体的な数値目標などを示していくべきではないかと感じた。「進路希望実現」や「成績向上」という曖昧な言葉では教職員の意識の連携が困難だと感じた。 ○県教委主催の「新時代に対応した授業研修」への全校的取り組みも昨年度末で終わったが，その意識を継続させた授業展開の取り組みが続けられており，授業改善や資質向上への積極的姿勢が「当たり前」となっている。 ○生徒・職員ともに、現状を変えようと自主的な取り組みや学習が見られるようになってきている。 ●生徒の非常に幅広い学力層への対応に追われ、1・2年後や卒業後まで見据えた授業づくりや指導にまで手が回っていない状況がある。 ●各教職員がそれぞれ資質向上に取り組んでいる一方で、その成果には個人差があるように感じられる。そこで、毎年テーマを設定し、学校全体として計画的・継続的に取り組むことが有効ではないかと考える。	3	○ご多忙な先生方だと思いますが、働き方改革を意識していただき、心身の健康を維持しながら、生徒さんへの指導にあたっていただきたいと思います。 ○引き続き、取組の推進をお願いします。
生徒支援部	2 豊かな心の醸成と基本的生活習慣の確立	(1)生徒一人ひとりの命と人権を尊重した指導 (2)基本的生活習慣の確立	(1) ①自転車で登校するすべての生徒がヘルメットを着用している ②元気な挨拶ができ、端正な容儀を保っている ②法令や校則を遵守し、モラルやマナーを大切にしている	①自転車ヘルメット着用率100%を目指し、ヘルメット購入時の補助金支給や校則化に取り組んでいく ②関係部や学年と連携を図りながら生徒の情報を共有し、問題が発生した場合には迅速かつ適切な対応を行う ①「正姿」の充実 ②教職員からの声かけによって、生徒が声を出して挨拶できる環境をつくる	2.8	○問題発生時の迅速な情報共有と対応はできていた。 ○自転車の施錠や駐輪場の様子について、担当のチェックが定期的に行われた。放置自転車も数台見受けられるので年度末に整理を行う予定である。 ○駐輪場にヘルメット着用の意識を喚起するプレートを設置することができた。 ●自転車のヘルメット着用を促進し切れていない。ヘルメットの所持率は上がったものの、登下校時の着用率は100%に近づいていないので、次年度は取り組みを強化していきたい。 ●容儀面のルールが曖昧な部分があるので、共通認識をしておく必要がある。ユニフォームとしての制服の着こなしを生徒自身が考えられるように迫っていきたい。 ●朝の8：15着席に間に合わない生徒がいるので、徹底させていきたい。	3	○BCPは策定されているのでしょうか（←本校はR5から策定しております） ○自転車のヘルメット着用は自分を守るためのものであり、義務として校則化してもよいと思います。
	3 自律的な自己の確立と文武両道の推進	生徒の主体性の育成と部活動の充実	(1) ①勉学と部活動の両立に向けて真摯に努力している ②各種行事、委員会活動に積極的に参加している	①生徒の主体性を尊重しながら活躍の場を提供し、生徒会執行部や各種委員会活動、実行委員会の活動の支援を行う ②部活動の活動内容や大会・試合日程、結果等を関係部署と連携して校内外に喧伝し、応援・支援体制を向上させる ③部活動への積極的な参加と学びの機会の確保とを両立させる	2.8	○各種委員会の活動（話し合い）の見える化に関して、職員室前の廊下にある黒板に、各委員会で話し合われたことを掲示するようになった。こうした活動を通して、委員会活動の活性化を図っていきたい。 ○運動部・文化部ともに活発な取り組みを見せ、成果を出している。顧問の先生方の日々のご指導に感謝である。 ○生徒会担当の先生方のおかげで、積極的な活動が年間通してなされた。次年度に向けて生徒会企画も計画しているところである。 ●定例生徒会（生徒会執行部と各クラス代表生徒の役割分担など）のあり方を整理し直す必要がある。またさらなる活動の活性化のために方策を講じる必要がある。 ●生徒会費についての検討は今後も継続していく必要がある。 ●次年度は交通安全や薬物乱用防止に関する啓発活動を行事に適宜入れ、生徒の意識喚起に努めたい。	3	
	4 地域に開かれた信頼され活力ある学校づくり	社会性があり、地域に愛される生徒の育成	(1) ①自分や周囲の人達の安心・安全を尊重することができる ②地域のボランティア等に積極的に参加できる ③情報機器や様々な情報に適切に関わることができる	①地域で開催されるボランティアの情報を随時生徒へ案内し、参加する機会を増やす ②関係機関と連携を図り、登下校時の交通マナーや規範意識の向上に努める	2.8	○担当の職員のおかげで、生支部ルームからのボランティアに関する情報提供が適宜なされ、自主的にボランティアに参加する生徒の数が増えてきている。 ●自転車走行時の並進や右側通行など、交通ルールの不徹底が見受けられる。次年度の青切符導入への対応も含め、生徒の意識喚起に努めたい。 ●校門を出てすぐのスマホ使用が見られるので、マナーについて生徒へ訴えていくとともに、適切な使用に関する情報提供も適宜行っていきたい。	3	○カバンに多数のぬいぐるみ？を下げている姿は見苦しい。 ○スマホ使用に関するリスクや節度ある使い方などの教育は必要だと思います。おそらく高校卒業後は日常生活の中で、あるいは社会の中で使わざるを得ないと思われますので。

令和7年度 宮崎県立高鍋高等学校 学年末反省

学校経営方針 （スクールミッション）	○文武両道の精神をうたい、真善美を理想とし、師弟同行のもと、「誇り高き高鍋プライド」を追究していく学校 ○「国づくりの基本は人材育成である」という明倫堂の精神とこれまでの歴史や伝統の流れのもと、新しい時代を主体的に切り拓く人材を育成する、地域教育の拠点を目指す学校 ○学問はもちろんのこと、文化・芸術・スポーツを通じて文教の実を上げ、地域の魅力と豊かさの発掘や地域の活性化への貢献を目指す学校
本年度の 重点目標	1 一人一人の進路実現に資する確かな学力の涵養 ①計画的なキャリア教育の推進に基づく、進学や就職等、自分のライフプラン実現に向けた学力の養成や資格取得等に挑戦する生徒の育成。②生徒自身が学習姿勢を改善する契機となる授業や評価の在り方についての研究。③生成AIの活用など、適切なツールを選択し学力の定着や向上に取り組む生徒の育成。 2 豊かな心の醸成と基本的生活習慣の確立 ①自他の命と人権を尊重し、互いを認め合える生徒の育成。②師弟同行のもと、環境美化や環境整備を進んで行う生徒の育成。③自然に心からの挨拶ができ、規則正しい生活習慣の確立に向き合う生徒の育成。 3 自律的な自己の確立と文武両道の推進 ①生徒が自ら求めて、学問、部活動、諸活動に取り組めるための段階的環境整備。②目標達成に向け、生徒が適切な方策・手段を模索し実践する場としての文武両道の推進。③生徒自身が自己有用感・自己肯定感を育める教育環境の整備。 4 地域に開かれた魅力と活力ある学校づくり ①児湯学友団コンソーシアム（KGC）の活用による地域拠点校としての役割推進及び児湯5町との連携強化。②地域の小学校・中学校や外部機関との積極的な連携や広報活動のさらなる充実。③PTA組織や同窓会組織との効果的かつ協働的な活動の推進。 5 教職員の資質向上 ①計画的な研修受講による各種指導力（教科指導力、生徒指導力等）や危機管理力の向上。 ②「明倫GP」の養成を指針とした、自走する生徒が育つ「高鍋メソッド」の確立。③同僚性・協働性・OJTの推進による教職員のチーム力向上。

評価のポイント
・自己評価の項目や指標は適切に設定されているか。
・自己評価の結果は指導等を元にした妥当なものであるか。
・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか。

評価段階
4：期待以上 3：ほぼ期待通り 2：やや期待を下回る 1：改善を要する

校務分掌	学校の重点目標	各部・学年・科の重点目標 ［上の表の学校経営方針との整合］ ［各部/学年/科のミッションを念頭］	評価指標（手段・ゴールイメージ） ［ミッション（努力事項）を達成したといえる状況］ ［上の表の評価項目との整合］	具体的な対策	学年末 評価	学年末 成果及び改善策 （○成果あり ●次年度にむけた課題）	学校運営協議員の御意見 評価	学校運営協議員の御意見 具体的な御意見（空欄は特記なし）
進路支援部	1.一人一人の進路実現に資する確かな学力の涵養	実現のための学力向上・活動実績づくりの支援とキャリア教育の充実	①自分の将来像が明確にイメージでき、卒業後の進路希望が具体的になっている ②基礎学力の定着を図り、進路実現へ向けた諸活動・資格取得に積極的に取り組んでいる。 ③国公立大学入学試験合格率、推薦入試50%、一般入試40%を達成 ④就職試験合格率100%を達成	①進路LHRを活用し、低学年からの志望校対策指導を実施する ②進学講演会、進路ガイダンス、県内大学訪問の実施 ③受験における小論文・面接指導の組織的な取り組み ④放課後講座、長期休業中のセミナー計画・実施 ⑤学力検討会、志望校検討会、模試分析会の充実を図る	3.0	○1年生は、入学直後の進路オリエンテーションや2学期の進路LHRで外部講師を招き進路講演会を実施した。進学と就職、高校での学習の意義や文系・理系の選択に関する説明を聞くことで、高校での類型選択を理解できた。 ○2年生は、校外での進学相談会、県内大学訪問を実施し、多方面から話を聞くことで、自分の進むべき道をより具体的に考える機会を得ることができた。 ○2年生のCI・生文クラスに特化した進路相談会では、就職に関する面接や志望理由の書き方等を学ぶことができた。 ○3学年放課後課外は共通テスト対策として可能な限り講座の種類を増やし実施することができた。12年生対象の夏期セミナーでは参加希望者が昨年度を大きく上回った。それに伴って講師や使用教室の割り振りに支障が出た。来年度は学年の垣根を取り払って講座を展開するなど実施での工夫が必要である。 ○国公立大学入の学校型推薦、総合型選抜試験の合格率は35%であった。とりわけ今年度は総合型選抜での合格率が上昇した。これは小論文・面接指導に組織的に取り組めた成果でもあった。 ○民間就職は面接指導の組織的な取り組みができ、合格率100%であった。また、今年は役場を含む公務員の合格者数が増加した。 ○本年度より広島大学WWLコンソーシアム加盟校となり金曜日の放課後、定期的にオンラインセミナーを開催することができた。回を追う毎に参加生徒も増え、学びに対する意識の高まりが感じられた。 ●学力検討会、志望校検討会では、情報交換のみにならず、学力向上や進路意識の向上につながる内容とするためのエ夫、検討が必要である。	4	○国公立大学合格率（総合型選抜）が上昇したことは素晴らしいことです。引き続き指導をお願いしたい。モチベーションを促すための様々な企画（卒業生や社会人の講話など）もあるとよいと思います。
	3.自律的な自己の確立と文武両道の推進	生徒の主体性・自己管理能力の育成	①短期的・長期的な目標を立て、計画的な取り組みを通して、確かな実践力を身につけている ②自宅学習を中心とした学習習慣が身についている	①Classiを活用し、日々の生活状況と家庭学習状況を振り返る ②Classiを活用し、自主的な学習への取り組みとポートフォリオの蓄積を支援する ③学習実態調査結果と学習成績のデータを分析し、対策を講じる	3.0	○1年生はタブレットの利用開始直後にClassiの活用講座を実施し、スムーズな運用ができた。 ○Clasiの学習記録を入力することで、日々の学習習慣の確立を意識したり、自分の勉強時間と模試成績の関連を理解できた。また課題研究や探究活動など進路に係るポートフォリオの蓄積においてClassiを活用する生徒が増えた。 ○Classiの閲覧管理の権限を担任以外の先生方にも与えることで、学年団全体でのClassiを利用した指導が可能となった。 ○Classiアンケート機能を活用し、共通テストの感想文集を教員向けに迅速に公開できた。1・2学年のLHRで活用が容易となった。 ○Classiの学習課題教材に教科書の単元項目が追加され、自主的な学習が促進された。 ●Classiの入力時間を学校内で確保することが依然として難しい。 ●利用者全員がClassi1の機能をフルに活用しているとは言い難い。活用講座を開いたり、活用例を紹介するなど積極的に利用を促進していきたい。	3	
	5.教職員の資質向上	生徒の可能性を最大限に伸ばす進路指導の研究	①入試研究会や講習会などの研修に積極的に参加している ②最新の進路情報を教員間で共有し、面談等に活用できている ③進学・就職に係る実践力を育成するための授業改善に取り組んでいる	①受験に係る校内研修の計画・実施 ②進路説明会や企業説明会への積極的参加と情報共有 ③県内新規企業の開拓と先進校視察の計画	2.5	○大学・専門学校説明会には3学年の先生を中心に参加し、学年会や学力検討会で情報共有した。面談等を利用して、得た情報を生徒へ還元し、生徒の進路実現に生かすことができた。1・2学年へ必要と思われる情報伝達も積極的に心がけ、早い段階から進路意識の醸成を図りたい。 ○就職については、県の就職支援コーディネーターと連携を図り、情報収集したものを担任や関係職員と共有し、個別支援・面談等に活用できた。企業説明会や公務員等説明会に参加するなど生徒も積極的に動いていた。就職ガイダンスでは面接や試験に向けての心構えを高めることができた。 ○来年度から開催される西都・児湯地区の企業説明会に1・2年生のCI・生文クラスを参加させる方向で検討している。 ●時間の捻出が難しく、受験に特化した校内研修会を開催することができなかった。	3	○西都児湯地区の企業説明会へ是非参加させていただきたいです。（人手不足は深刻です）

令和7年度 宮崎県立高鍋高等学校 学年末反省

学校経営方針 （スクールミッション）	○文武両道の精神をうたい、真善美を理想とし、師弟同行のもと、「誇り高き高鍋プライド」を追究していく学校 ○「国づくりの基本は人材育成である」という明倫堂の精神とこれまでの歴史や伝統の流れのもと、新しい時代を主体的に切り拓く人材を育成する、地域教育の拠点を目指す学校 ○学問はもちろんのこと、文化・芸術・スポーツを通じて文教の実を上げ、地域の魅力と豊かさの発掘や地域の活性化への貢献を目指す学校
本年度の 重点目標	1 一人一人の進路実現に資する確かな学力の涵養 ①計画的なキャリア教育の推進に基づく、進学や就職等、自分のライフプラン実現に向けた学力の養成や資格取得等に挑戦する生徒の育成。②生徒自身が学習姿勢を改善する契機となる授業や評価の在り方についての研究。③生成AIの活用など、適切なツールを選択し学力の定着や向上に取り組む生徒の育成。 2 豊かな心の醸成と基本的生活習慣の確立 ①自他の命と人権を尊重し、互いを認め合える生徒の育成。②師弟同行のもと、環境美化や環境整備を進んで行う生徒の育成。③自然に心からの挨拶ができ、規則正しい生活習慣の確立に向き合う生徒の育成。 3 自律的な自己の確立と文武両道の推進 ①生徒が自ら求めて、学問、部活動、諸活動に取り組めるための段階的環境整備。②目標達成に向け、生徒が適切な方策・手段を模索し実践する場としての文武両道の推進。③生徒自身が自己有用感・自己肯定感を育める教育環境の整備。 4 地域に開かれた魅力と活力ある学校づくり ①児湯学友団コンソーシアム（KGC）の活用による地域拠点校としての役割推進及び児湯5町との連携強化。②地域の小学校・中学校や外部機関との積極的な連携や広報活動のさらなる充実。③PTA組織や同窓会組織との効果的かつ協働的な活動の推進。 5 教職員の資質向上 ①計画的な研修受講による各種指導力（教科指導力、生徒指導力等）や危機管理力の向上。 ②「明倫GP」の養成を指針とした、自走する生徒が育つ「高鍋メソッド」の確立。③同僚性・協働性・OJTの推進による教職員のチーム力向上。

評価のポイント
・自己評価の項目や指標は適切に設定されているか。
・自己評価の結果は指導等を元にした妥当なものであるか。
・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか。

評価段階
4：期待以上 3：ほぼ期待通り 2：やや期待を下回る 1：改善を要する

校務分掌	学校の重点目標	各部・学年・科の重点目標 ［上の表の学校経営方針との整合］ ［各部/学年/科のミッションを念頭］	評価指標（手段・ゴールイメージ） ［ミッション（努力事項）を達成したといえる状況］ ［上の表の評価項目との整合］	具体的な対策	学年末 評価	学年末 成果及び改善策 （○成果あり ●次年度にむけた課題）	学校運営協議員の御意見 評価	学校運営協議員の御意見 具体的な御意見（空欄は特記なし）
教育魅力化・情報部	1．一人一人の進路実現に資する確かな学力の涵養	情報社会を生き抜くための技術やアイデアを学ぶ環境を整備し、学校全体の情報活用能力の向上を図る。	①県導入の教育アカウントを適切に学習・学校活動で利用している。 ②明倫をはじめとした様々な探究活動で効果的に利用できている。 ③正しさを知り、正しく恐れる。	①アカウントを適切に利用するためのガイドブックを作成し、オリエンテーションや講話を通じて適切な利用を促す。 ②教科や学科と連携を図り、生徒が効果的にICT活用ができる教育を実施していく。	2.8	○授業支援ツールWin Birdの導入に向けてトライアルの実施および職員対象に任意研修を開くことができた。 ●授業内でのタブレット使用についてはまだまだ課題も多く，特に目的外使用が目立つ（インスタグラムをはじめとしたSNSの閲覧，学習に関係のない動画の視聴，違法マンガサイトの閲覧などが目立つ） ○生徒の、タブレット等のICT端末を扱う能力は年々長けてきているように感じる。	3	○タブレットからのアクセスに制限をかけることはできないのでしょうか？（校内で）
	3．自律的な自己の確立と文武両道の推進	OSやNPJ、令和明倫堂塾等の行事を通して、生徒自身が自己有用感や自己肯定感を育むことができる環境を提供する。	①学校行事やKGC主催の各行事において、行事の参加だけでなく、運営スタッフとしての積極的参加を促し、生徒の自己肯定感や自己有用感の醸成につなげている。	①OSやNPJの運営にボランティアとして関わる生徒たちを募集し、本校の魅力を再認識させる。 ②令和明倫堂塾の活動を通して、自分の将来や人生について考える機会を設ける。	3.0	○高校生ボランティアの積極的な参加も見られ，活発な活動を行うことができた。 ○第３回目の令和明倫堂塾では例年以上に申込があった。 ○OSやNPJ、KGCの諸活動に関わった生徒たちにとっては、よい学びの機会となった。 ○第3回令和明倫堂塾のボランティア生徒が積極的に動いてくれた。また、今までにない多さの参加人数となったが、楽しんで参加できている様子が見られてよかった。 ●その一方で、サポートが必要な低学年の子どもや、そもそもの参加人数が多かったことも相まって、なかなか円滑に進めることができず、バタバタしてしまった。職員スタッフの人数を考慮して募集をかける必要があると感じた。 ●一方で、NPJ、KGCの諸活動を企画・運営するにあたり、担当職員は授業を自習措置や入れ替えにせざるを得ない現状があり、業務負担の大きさが課題として挙げられる。 ●コンソーシアムという組織形態の観点から年３回の令和明倫堂塾を本校内の職員だけで企画から運営まで担っていることには疑問が残る。児湯町内の中で協働的に企画運営を行う仕組みづくりや立ち上げの目的をもう一度振り返って友好的な組織づくりをしないといけないのではないかと考える。	3	
	4．地域に開かれた魅力と活力ある学校づくり	児湯学友団コンソーシアム協議会（KGC）の活用による地域拠点校としての役割を推進し、児湯5町との連携を強化することで、協働的な学びの場を創出する。また高鍋高校の新たな価値を創造し、発信する。	①地域の小中学校、高校との連携を図っている。 ②KGC事務局として地域に貢献できる活動を実践している。 ③オープンスクールの企画を通して本校生徒の自己肯定感や自己有用感の醸成につなげている。 ④鮮度の高い情報を随時配信することで、地域の高鍋高校の教育活動への関心を高めている。	①中学校説明会に出向く教員と生徒の選抜と事前指導、資料作成を行う。 ②近隣の小中学校と連携し、学び体験の場や探究活動の場を企画・提供する。 ③KGC事務局として、児湯5町および周辺の小中高校と連携し、各事業の円滑な運営を実践する。 ④HPやSNSを適宜更新し、新鮮な情報を発信する。	3.0	○学び体験など中学校の生徒へ実際に足を運んでもらって本校の良さを知る機会づくりができた。 ○KGCの活動では、参加者がどうしたら楽しめるかを常に考えながら企画することができた。 ●KGC事業は一部の生徒にとって意義のある取り組みである一方、担当職員の負担が大きく、運営体制の見直しが必要な状況にある。今後は、事務局の役割整理を行うとともに、目的に即した企画立案や効果的な周知、参加促進を進めていくことが課題である。 ●情報発信ツールの不統一性によって発信が不十分な状況も垣間見える。 ●HPをリニューアルしたいが、記事の更新で止まっている。次年度までにリニューアルとまではいかなくても、運用の仕方も含め、色々と改善していく余地あり。	3	○外部委託などはできないのでしょうか。
	5．教職員の資質向上	効果的なICT研修を企画し、授業力や情報処理能力、情報活用能力の向上につなげる。	①生徒たちが満足する授業を実践している。 ②ICTを適宜利用し、効果的な授業やスムーズな校務が実践できている。	①職員研修を企画・実施し、授業での活用方法を波及していく。 ②ICT活用の充実を図る。 ③他の校務分掌との連携を図り、効果的なICT活用を促す。	2.0	○充実したICT活用に向けてさまざまな方向性を模索できた。 ○タブレット端末の不適切利用を抑制する手段として、また効果的な学習支援として、ウインバードの導入を検討し、一定の使用期間を設けて試行することができた。 ●一方で、ウインバード導入の是非を判断するには、試用・検証に関わった職員の人数が十分であったかという課題が残った。 ●先生方のニーズに合わせた研修やICT活用を促進するための仕掛けが不十分な点など課題もまだまだ残っている。 ○教科にもよるとは思うが、授業で効果的なICT活用ができているように感じる。	3	○外部講師の活用、NTT等との協定は？
保健環境・相談部	2 豊かな心の醸成と基本的生活習慣の確立	(1)健康安全教育・防災教育の推進 (2)校内環境美化・緑化の推進		(1)①生徒の心身の健康の充実を図る ②救急法の実践活動を推進する ③個人の健康管理を充実させる ④防災教育の充実を図る (2)①校内衛生管理の充実を図る ②日常の清掃活動の指導・監督 ③定期的な清掃状況の調査・確認 ④学習環境の点検及び改善	2.8	○生徒会緑化担当の生徒が中心となり、新しい取り組みが始まった。課題となっている案件も生徒主体で解決できそうである。 ●○今年度、トイレの利用状況が悪く、配管が詰まるような状態が続いたため、保健委員にトイレの利用の仕方についてポスターを作成してもらい、各個室に掲示した。 ●防災訓練だけでなく、不審者対応の訓練も考えていかなければならない。 ●１３：１５に掃除を開始できていない生徒が多い、生徒の中には清掃に取り組む意識の低い生徒もいるので、先生方の現場でのご指導（師弟同行）をお願いしたい。	3	
	3 自律的な自己の確立と文武両道の推進	生徒支援の向上		①学年会や保健室の情報を基に速やかな対応 ②生徒支援部との連携による生徒理解の深化 ③校内外の諸機関との連携を密に図る	3.0	○相談室、保健室、学年会と連携しながら、様々な悩みを持つ生徒に対応した。まだまだ不十分なところもあるかと思うが、心配な生徒がいる場合は、遠慮なく声をかけていただきたい。 ○保健室や相談室に頻繁に来ていた生徒、あるいはSC、SSWに相談にのってもらった生徒の多くがなんとか卒業を迎えることができた。退学や転学等で高鍋高校を離れることになった生徒もいるが、関わっていただいた多くの先生方に心から感謝申し上げます。 ○生活文化科の先生方を中心に様々な先生方から、保健室に来室した生徒に向けて声掛けや教室への促しをしていただいた。少しずつ保健室に長居する生徒が減ってきているように感じている。 ●特別支援を必要としている生徒が今後も増加していくと思われる。中学校との情報交換等を通じて生徒の状況把握を行い、支援体制を早期から構築して行く必要がある。	3	○メンタルヘルス対策。ゲートキーパー等専門の職員はおられますか。（←教育相談関係の職員を配置しております。SC・SSWの配置もあります。併せて、教職員全員ゲートキーパー研修をオンデマンドで受講しております） ○これからも支援が必要な生徒への対応をお願いします。
	5 教職員の資質向上	生徒・保護者・職員の支援		①教育相談に関する研修の実施 ②教育相談アンケート・週間の実施と活用 ③担任、副担任、部顧問及び保護者との連携 ④教育相談室の整備と活用	3.0	○１月実施の第２回アセスにおいては、第１回と比べて誤入力数を減らすことができた。 ○SC,SSWによる研修を実施できた。来年度もおそらく実施することになると思うが、内容については職員の希望を反映できるようにしたい。 ●アセスや教育相談アンケートにおいて、全員の回答を集めるために半月以上の日数を要していること。 ●年度当初に計画を入れておかなければ、年度途中でアンケートを実施するのは難しい。早めの計画が必要。 ●第２保健室の整備が完了していないため、引き続き整備を行っていく必要がある。	3	

令和7年度 宮崎県立高鍋高等学校 学年末反省

学校経営方針 （スクールミッション）	○文武両道の精神をうたい、真善美を理想とし、師弟同行のもと、「誇り高き高鍋プライド」を追究していく学校 ○「国づくりの基本は人材育成である」という明倫堂の精神とこれまでの歴史や伝統の流れのもと、新しい時代を主体的に切り拓く人材を育成する、地域教育の拠点を目指す学校 ○学問はもちろんのこと、文化・芸術・スポーツを通じて文教の実を上げ、地域の魅力と豊かさの発掘や地域の活性化への貢献を目指す学校
本年度の 重点目標	1 一人一人の進路実現に資する確かな学力の涵養 ①計画的なキャリア教育の推進に基づく、進学や就職等、自分のライフプラン実現に向けた学力の養成や資格取得等に挑戦する生徒の育成。②生徒自身が学習姿勢を改善する契機となる授業や評価の在り方についての研究。③生成AIの活用など、適切なツールを選択し学力の定着や向上に取り組む生徒の育成。 2 豊かな心の醸成と基本的生活習慣の確立 ①自他の命と人権を尊重し、互いを認め合える生徒の育成。②師弟同行のもと、環境美化や環境整備を進んで行う生徒の育成。③自然に心からの挨拶ができ、規則正しい生活習慣の確立に向き合う生徒の育成。 3 自律的な自己の確立と文武両道の推進 ①生徒が自ら求めて、学問、部活動、諸活動に取り組めるための段階的環境整備。②目標達成に向け、生徒が適切な方策・手段を模索し実践する場としての文武両道の推進。③生徒自身が自己有用感・自己肯定感を育める教育環境の整備。 4 地域に開かれた魅力と活力ある学校づくり ①児湯学友団コンソーシアム（KGC）の活用による地域拠点校としての役割推進及び児湯5町との連携強化。②地域の小学校・中学校や外部機関との積極的な連携や広報活動のさらなる充実。③PTA組織や同窓会組織との効果的かつ協働的な活動の推進。 5 教職員の資質向上 ①計画的な研修受講による各種指導力（教科指導力、生徒指導力等）や危機管理力の向上。 ②「明倫GP」の養成を指針とした、自走する生徒が育つ「高鍋メソッド」の確立。③同僚性・協働性・OJTの推進による教職員のチーム力向上。

評価のポイント
・自己評価の項目や指標は適切に設定されているか。
・自己評価の結果は指導等を元にした妥当なものであるか。
・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか。

評価段階
4：期待以上 3：ほぼ期待通り 2：やや期待を下回る 1：改善を要する

校務分掌	学校の重点目標	各部・学年・科の重点目標 ［上の表の学校経営方針との整合］ ［各部/学年/科のミッションを念頭］	評価指標（手段・ゴールイメージ） ［ミッション（努力事項）を達成したといえる状況］ ［上の表の評価項目との整合］	具体的な対策	学年末 評価	学年末 成果及び改善策 （○成果あり ●次年度にむけた課題）	学校運営協議員の御意見 評価	学校運営協議員の御意見 具体的な御意見（空欄は特記なし）
渉外広報・図書部	2. 豊かな心の醸成と基本的生活習慣の確立	（1）読書指導の充実 （2）生徒図書委員活動の充実 （3）館内の環境整備の充実	①本に興味関心を持ち、課題解決や進路実現に役立てることができる。 ②生徒主体の図書館運営を目指し、各係が協力しながら責任を持って活動できる。 ③新刊や良書をそろえ、落ち着いた雰囲気で読書できる空間作りに努力する。	①朝の読書を通して興味関心を深めさせる。また、月初めの図書部会で選書し、生徒や職員から希望図書を出してもらう。 ②毎月新刊案内、ライブラリーニュースを発行して、本の紹介や図書室利用を呼びかける。 ③調べ学習やアクティブラーニングへの関わり方を検討する。また、季節に合わせて閲覧室の模様替えや特設コーナーの本をリニューアルする。	3.0	○朝の読書時間に、ひなた電子図書館の利用が増え、生徒が読書している様子が見受けられ、各担任の先生方のご指導の成果もあり、朝読書を充実させることができた。 ●図書館の利用率という点では、常連の生徒も出てきたが、全体的に利用率増加はあまりできなかった。	3	
	4. 地域に開かれた信頼され活力ある学校づくり	（1）学校・保護者の連携を深める （2）職員・保護者の研修の機会設定 （3）生徒・保護者・地域社会への情報提供	①PTA総会、学年PTA及びPTA諸行事の活性化を通して、学校と家庭の連携・協働を推進する。 ②PTA活動を通して、環境整備や学校行事活性化の活動を行う。また、PTA各種研修の成果を生徒に還元する。 ③魅力ある広報物（PTA新聞、学校パンフレット、学校案内ポスター等）の作成を行う。	①保護者案内を早期に行い、会の内容が魅力あるものになるように検討する。 ②PTA奉仕活動や食物バザーを保護者と学校が連携して実施する。 ③PTA新聞は学期毎に広報委員と職員が協力して編集発行する。また、学校パンフレット・ポスター等の内容を、部会を通して検討する。	3.0	○保護者のご協力のもと円滑に行事を運営することができた。 ○ＰＴＡ関係の次年度の取組について検討を行った。 ・ＰＴＡ総会は、生徒の授業や部活動の確保、移動の負担軽減などの観点から、教室配信の形態とする。資料は当日配布するが、事前にデータ配信して質疑の待ち時間を短縮する。 ・ＰＴＡバザーは、安価なものを提供する観点で継続するが、協力していただく保護者の負担軽減を考えて、キッチンカー（月市・ＮＡＢＥＧＯ）等との連携を模索する。 ・視察や研修は委員以外にも案内していく。 ・ＰＴＡ新聞の経費削減案として、ＨＰ掲載を検討する。 ○次年度用の学校パンフレット・ポスターの作成に取り組んだ。	4	○ポスター等は各方面に配布、掲示していただきたい。
事務部	2 豊かな心の醸成と基本的生活習慣の確立	環境美化等に取り組める環境の整備	①在庫管理表に記入した上でいつでも必要な道具を受け取ることができる。 ②教室等のゴミをいつでもゴミ置き場に搬入できる。 ③集めた落葉を落葉等ゴミ捨て場に搬入できる。	①関係部と連携した在庫管理に基づき計画的な清掃用具等の購入を行う。 ②ゴミ置き場に持ち込まれたゴミの定期的な搬出を行う。 ③落ち葉等ゴミ捨て場の定期的なゴミの搬出を行う。	3.0	○清掃用具等は持出簿等により在庫確認を行い計画的に発注を行った。 ○委託契約を早めに行うことで年度当初から定期的なゴミの搬出ができた。 ○産廃倉庫のゴミの状況を確認し定期的に搬出を行った。○落ち葉等ゴミ捨て場の状況を確認しゴミの搬出を行った。 ●冬場の落ち葉等で搬出後すぐに満杯になったので、搬出時期等を検討する。	3	
	3 自律的な自己の確立と文武両道の推進	安心して教育活動に取り組める施設整備	①危険箇所の把握が行われる。 ②樹木の枝落下などの危険性が回避される。 ③急を要するものから修繕が行われる。	①教職員・生徒からの情報や校内巡視による危険箇所の把握を行う。 ②敷地内の樹木の剪定等適正な管理を行う。 ③修繕に必要な予算の確保を図る。	3.0	○教職員や生徒からの情報と校内巡視により危険箇所の把握を行った。 ○敷地内の伐採剪定を行うため、業者と契約を行った。 ○修繕に必要な予算を確保し、危険な箇所から修繕を行った。 ●伐採が年度末になったので早い時期に実施できるようにする。	3	
	4. 地域に開かれた信頼され活力ある学校づくり	保護者等に信頼される事務室づくり	①事務手続に関する保護者の協力が得られる。 ②予算の効率的な執行が行われる。 ③PTAの運営における保護者の協力が得られる。	①電話や来校者に対して丁寧な対応を行う。 ②法令等に基づく適正な予算の管理・執行を行う。 ③PTA予算の適正な管理・執行を行う。	3.0	○窓口収納に来られた方に感謝の言葉を伝えるなど丁寧な対応を行った。 ○来校者を待たせないよう速やかに担当の先生等へ取次を行った。 ○日頃から法令・規則を確認し、最新の法令等に基づく適正な予算の管理・執行を行った。	3	○接客態度が素晴らしいと感じております（笑顔がいい）

令和7年度 宮崎県立高鍋高等学校 年度末反省

学校経営方針 （スクールミッション）	○文武両道の精神をうたい、真善美を理想とし、師弟同行のもと、「誇り高き高鍋プライド」を追究していく学校 ○「国づくりの基本は人材育成である」という明倫堂の精神とこれまでの歴史や伝統の流れのもと、新しい時代を主体的に切り拓く人材を育成する、地域教育の拠点を目指す学校 ○学問はもちろんのこと、文化・芸術・スポーツを通じて文教の実を上げ、地域の魅力と豊かさの発掘や地域の活性化への貢献を目指す学校
本年度の 重点目標	1 一人一人の進路実現に資する確かな学力の涵養 ①計画的なキャリア教育の推進に基づく、進学や就職等、自分のライフプラン実現に向けた学力の養成や資格取得等に挑戦する生徒の育成。②生徒自身が学習姿勢を改善する契機となる授業や評価の在り方についての研究。③生成AIの活用など、適切なツールを選択し学力の定着や向上に取り組む生徒の育成。 2 豊かな心の醸成と基本的生活習慣の確立 ①自他の命と人権を尊重し、互いを認め合える生徒の育成。②師弟同行のもと、環境美化や環境整備を進んで行う生徒の育成。③自然に心からの挨拶ができ、規則正しい生活習慣の確立に向き合う生徒の育成。 3 自律的な自己の確立と文武両道の推進 ①生徒が自ら求めて、学問、部活動、諸活動に取り組めるための段階的環境整備。②目標達成に向け、生徒が適切な方策・手段を模索し実践する場としての文武両道の推進。③生徒自身が自己有用感・自己肯定感を育める教育環境の整備。 4 地域に開かれた魅力と活力ある学校づくり ①児湯学友団コンソーシアム（KGC）の活用による地域拠点校としての役割推進及び児湯5町との連携強化。②地域の小学校・中学校や外部機関との積極的な連携や広報活動のさらなる充実。③PTA組織や同窓会組織との効果的かつ協働的な活動の推進。 5 教職員の資質向上 ①計画的な研修受講による各種指導力（教科指導力、生徒指導力等）や危機管理力の向上。②「明倫GP」の養成を指針とした、自走する生徒が育つ「高鍋メソッド」の確立。③同僚性・協働性・OJTの推進による教職員のチーム力向上。

評価のポイント
・自己評価の項目や指標は適切に設定されているか。
・自己評価の結果は指導等を元にした妥当なものであるか。
・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか。

評価段階
4：期待以上 3：ほぼ期待通り 2：やや期待を下回る 1：改善を要する

学年学科	学校の重点目標	各部・学年・科の重点目標 ［上の表の学校経営方針との整合］ ［各部/学年/科のミッションを念頭］	評価指標（手段・ゴールイメージ） ［ミッション（努力事項）を達成したといえる状況］	具体的な対策	学年末 評価	学年末 成果及び改善策 （○成果あり ●次年度にむけた課題）	学校運営協議員の御意見 評価	学校運営協議員の御意見 具体的な御意見（空欄は特記なし）
第1学年	1 一人一人の進路実現に資する確かな学力の涵養	自己理解と進路理解に努め、進路目標の実現に向けた基礎学力の醸成に取り組む生徒の育成	①自己理解と進路理解に努め、主体的な進路目標の設定ができる。 ②自宅学習や放課後の学習を充実させ、基礎学力の定着を図ることができている。 ③各種模試の受験前後でClassiを活用し、自己分析ができている。	①明倫の時間や進路LHRを活用することで、進路意識の向上を図る。 ②「授業が第一」の意識付けを徹底し、日々の学習への取り組みの充実を図る。 ③日々の学習時間の記録や模試連携問題などClassiの有効活用を図る。	3	○授業の取り組みは全体的に良かった。 ○コース選択を機に、各自の進路を具体的に考え始める生徒が増えた。 ○自分の進路を考えて、将来に向き合い、進路調べを積極的にし始める生徒が増えた。 ○集会や学習会を通して、評定悪化の懸念がある生徒へ危機意識や多少の意欲を持たせることができた。 ●Classi入力や学習の習慣づけがまだできていない。もっと有効活用させたい。 ●進路に対して、努力しなくてもどうにかなると考えている生徒も散見される。 ●日々の記録（Classi）が徹底できなかった。 ●進路を見据えた自走力の育成が課題。 ●課題の提出や単元テストへの取り組みが甘い生徒への根源的な対処法を考える必要がある。	3	
	2 豊かな心の醸成と基本的生活習慣の確立	基本的生活習慣の確立を図ると共に、何事にも積極的・自主的に取り組む意欲を備えた生徒の育成	①挨拶や服装容儀、清掃活動など、高鍋高校生として帰属意識を持って、日々の学校生活を意欲的に送ることができている。 ②常時指導や声掛けを徹底し、遅刻、欠席ゼロを目指す。	①生徒支援部や保健環境相談部との密な連携を図る。 ②正副担任や学年主任との定期的・臨時的な二者面談を実施する。 ③Takanabe Highschool styleを周知させ、常時声かけを行う。	3	○保健環境相談部との連携で生徒の状況を把握することができた。 ○教室や廊下の整理整頓を日々指導した結果、成果が見られた。 ●服装容儀面で気になる生徒への日常的な声掛けが必要。 ●ロッカー・机周り・机の中など身近な整理整頓や物をなくすなどの持ち物管理ができなかったり、飲食物を床に落としても気にとめなかったりする生徒がいる。 ●容儀面等のルール徹底について生徒支援部も含めて取り組む必要がある。 ●清掃を時間いっぱい真剣に取り組む雰囲気が無いのは課題。 ●私物やゴミが放置されている様子が散見される。	3	○整理整頓、清掃、清潔の徹底をお願いしたい。 ○高校生とはいえ、家庭での親の声掛けも大きく影響すると考えます。生徒に加え、親へのアプローチも必要と考えます。
	3 自律的な自己の確立と文武両道の推進	学校行事・部活動・ボランティア活動等に積極的に取り組み、行動力と豊かな人間力を持った生徒の育成	①部活動への加入を推進し、文武両道を目指している。 ②学校行事や各種ボランティア活動、校内での委員会活動などに主体的に参加し、学校・地域に貢献する活動ができている。	①文武両道を目指し、適宜部顧問との連携を図る。 ②学校行事を中心に生徒が主体となる活動の機会を増やす。 ③校内外のボランティア活動等への積極的参加を呼びかける。	3	○ボランティア等に参加する生徒が増えてきた。 ○講演会等の案内をした際、参加しようとする生徒が増え、最近は友達同士で内容や日程を確認する様子が見受けられる。 ○校外活動に積極的に参加する生徒が増加している、 ○講座・ボランティアなど教室掲示の案内に興味を示す生徒が増えた。 ●1年生とはいえ、日常的な学校生活がより落ち着くと良い。多方面からの指導を適宜行う。 ●部活動未加入者や退部した生徒に、部活動加入を勧めたが、あまり効果はなく、部活動生の増加はできなかった。	3	○存在感をアピールして、地域に愛される高校になっているように感じます。
第2学年	1 一人一人の進路実現に資する確かな学力の涵養	具体的な進路目標を設定し、進路実現に向けて努力できる生徒の育成	・オープンキャンパスや進路ガイダンスへ目的意識を持って参加する。 ・2者面談を通して、進路に対する意識をより向上させることができる。 ・英検、漢検、数検、世界遺産検定など自ら目標を設定し受験する。	①オープンキャンパスやセミナー等への積極的な参加を促す。 ②Classi上で学習状況の把握や模試の事前指導などを積極的に活用する。 ③個別指導を計画的に学年全体で実施（上位層・下位層）する。 ④各種検定への積極的なチャレンジを促す。 ⑤BUTimeや6限終了後の7限目の時間の計画的かつ効果的な運用を図る。	3.0	○朝の講座（国語や化学）、金曜日放課後の講座（国語）に意欲的に取り組む生徒がおり、少しずつではあるが学力向上につながっている。 ○二者面談を行ったことで、進路に対する意識向上に繋がり自分の将来について考えることが出来た。進路に対する目標が設定でき、学習への意識が高まった。検定などの受検を積極的に取り組む生徒が増えた。 ○生活文化科の各種検定合格に向けて自ら計画を立てて取り組んでいた。 ●BU Time は、結果的に7時間、8時間授業のようになっており職員の負担感が大きい。なくしてもよいのではないか。 ●英検は受験にも有利であるので学校をあげて受験を推進しているが、リスニング対策等事前の指導がもう少してきればよかったと思う。 ●7時間目の有効活用ができていない。組織的に動くべき。 ●課題一覧等を活用し、適切な量とバランスの課題を与えるべき。冬休みの課題が多かったとの生徒の声多数。もっと教科間での連携をとるべき。	4	
	2 豊かな心の醸成と基本的生活習慣の確立	基本的生活習慣の確立を図ると共に、中堅学年としての自覚と規範意識を持った生徒の育成	・挨拶や服装容儀、清掃活動など、高鍋高校生として相応しい学校生活を送ることができている。 ・常時指導を徹底し、遅刻、欠席減を目指す。 ・学校行事の企画・運営の中心を担うのが2年生の生徒になっている。	①生徒支援部・保健環境相談部との連携を図る。 ②正副担任や学年主任との定期的・臨時的な二者面談を行い、生徒の把握に努める。 ③学校での全ての活動を指導の場と捉え、常時指導を行う。 ④師弟同行による清掃活動を行う。	3	○基本的な生活習慣を身につける為の自己管理を粘り強く言ってきたことで、遅刻欠席が年度当初に比べて大きく減少した。 ○朝読書の時間に適宜指導を行った結果、現在では朝読書開始の2分前には、生徒たちが自ら朝読書を始めるようになった。 ○教科担任面談を実施し、個別指導につなげている。 ●服装や持ち物など華美なもの目につくが、指導する基準が不明確で指導できずに困っている。職員の目を揃える必要がある。 ●朝、登校時間ぎりぎりに登校してくる生徒や朝読書の時間に登校してくる生徒が一部見られるため、今後も継続的に声掛けを行っていく。	3	
	3 自律的な自己の確立と文武両道の推進	文武連動という理念を軸に、中堅学年として諸活動に主体的に取り組むことのできる行動力と豊かな人間力を持った生徒の育成	・自己の進路実現に向けての材料となるような実績や活動に取り組んでいる。 ・学校行事や各種ボランティア活動に主体的に参加し、学校・地域に貢献する活動ができている。 ・部活動と学業成績が連動し、双方共に良好な結果を出すことができる。	①「文武両道」を目指し7時間目の活用などについて、部顧問との連携を図る。 ②学校行事を中心に、生徒が主体となる活動の機会を増やす。 ③ボランティア活動や校外活動等への参加の呼びかけ（全体・個人）を促す。 ④学年集会で、生徒の活躍を紹介する場を設ける。	3.0	○ボランティアに参加する生徒が増えてきた。部活動を頑張っている生徒が多く、中心学年となって学校を引っ張っていく気概を持って活動している。 ○明倫探究成果発表会では、普通科・生活文化科の全生徒が、それぞれの役割を担えていた。1人ひとりが輝く場があってよかったと思う。その後の始業式での上位入賞者の発表もよかったと思う。 ●文武両道ができていない生徒が一部いる。文武両道の大切さと意義を伝えていかなくてはいけない。 ●部活動で公欠で試合等に臨む場合は、前もって教科担任に公欠で不在となることを伝えるようにして欲しい。	4	
	1 一人一人の進路実現に資する確かな学力の涵養	具体的な進路目標を設定し、進路実現に向けて努力できる生徒の育成	①2者面談、3者面談を通して、志望先を決定し、進路実現に向けて志望理由の作成に取り組むことができる。 ②放課後課外や夏季セミナーを通して、進路実現に必要な力を身につける姿勢をもつことができている。	①2者面談、3者面談を実施し、進路実現に向けて自走を促す。 ②個別指導の実施（上位層・下位層）を行う。 ③各種検定へ挑戦推奨と対策を行う。 ④BUタイムや夕方セミナーの計画的且つ効果的な運用を行う。	3	○各クラスの担任が早めの面談、細やかな面談を行って頂き、面談を積み上げて寄り添ってきた結果、生徒一人ひとりの進路目標の実現に近づくことができた。 ○進路が多様化している中で考えて行動できる生徒が増えている。 ●共通テストで必要な科目で点が取り切れるため、個別試験で必要な思考力・記述力を磨くためには、もう少し計画的で手厚い学習支援が必要であった。学年として、生徒一人一人の力を最大限に伸ばしきることができなかった。 ●推薦受験者が増えていることから、小論文指導に力を入れていく必要がある。 ●進路決定後、気の緩みが見られる生徒もいた。	3	

令和7年度 宮崎県立高鍋高等学校 年度末反省

学校経営方針 （スクールミッション）	○文武両道の精神をうたい、真善美を理想とし、師弟同行のもと、「誇り高き高鍋プライド」を追究していく学校 ○「国づくりの基本は人材育成である」という明倫堂の精神とこれまでの歴史や伝統の流れのもと、新しい時代を主体的に切り拓く人材を育成する、地域教育の拠点を目指す学校 ○学問はもちろんのこと、文化・芸術・スポーツを通じて文教の実を上げ、地域の魅力と豊かさの発掘や地域の活性化への貢献を目指す学校
本年度の 重点目標	1 一人一人の進路実現に資する確かな学力の涵養 ①計画的なキャリア教育の推進に基づく、進学や就職等、自分のライフプラン実現に向けた学力の養成や資格取得等に挑戦する生徒の育成。②生徒自身が学習姿勢を改善する契機となる授業や評価の在り方についての研究。③生成AIの活用など、適切なツールを選択し学力の定着や向上に取り組む生徒の育成。 2 豊かな心の醸成と基本的生活習慣の確立 ①自他の命と人権を尊重し、互いを認め合える生徒の育成。②師弟同行のもと、環境美化や環境整備を進んで行う生徒の育成。③自然に心からの挨拶ができ、規則正しい生活習慣の確立に向き合う生徒の育成。 3 自律的な自己の確立と文武両道の推進 ①生徒が自らを求めて、学問、部活動、諸活動に取り組めるための段階的環境整備。②目標達成に向け、生徒が適切な方策・手段を模索し実践する場としての文武両道の推進。③生徒自身が自己有用感・自己肯定感を育める教育環境の整備。 4 地域に開かれた魅力と活力ある学校づくり ①児湯学友団コンソーシアム（KGC）の活用による地域拠点校としての役割推進及び児湯5町との連携強化。②地域の小学校・中学校や外部機関との積極的な連携や広報活動のさらなる充実。③PTA組織や同窓会組織との効果的かつ協働的な活動の推進。 5 教職員の資質向上 ①計画的な研修受講による各種指導力（教科指導力、生徒指導力等）や危機管理力の向上。②「明倫GP」の養成を指針とした、自走する生徒が育つ「高鍋メソッド」の確立。③同僚性・協働性・OJTの推進による教職員のチーム力向上。

評価のポイント
・自己評価の項目や指標は適切に設定されているか。
・自己評価の結果は指導等を元にした妥当なものであるか。
・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか。

評価段階
4：期待以上 3：ほぼ期待通り 2：やや期待を下回る 1：改善を要する

学年学科	学校の重点目標	各部・学年・科の重点目標 ［上の表の学校経営方針との整合］ ［各部/学年/科のミッションを念頭］	評価指標（手段・ゴールイメージ） ［ミッション（努力事項）を達成したといえる状況］	具体的な対策	学年末 評価	学年末 成果及び改善策 （○成果あり ●次年度にむけた課題）	学校運営協議員の御意見 評価	学校運営協議員の御意見 具体的な御意見（空欄は特記なし）
第3学年	2 豊かな心の醸成と基本的生活習慣の確立	基本的生活習慣の確立を図ると共に、最終学年としての自覚と規範意識を持った生徒の育成	①挨拶や服装容儀、清掃活動など、高鍋高校生として相応しい学校生活を送ることができており、あらゆる面で下級生の手本となっている。 ②学力と共に挨拶や言葉遣いなどのソーシャルスキルを身につけている。	①生徒支援部・保健環境相談部との連携を図る。 ②学級担任・副担任による二者面談を行い、生徒の把握に努める。 ③学校での全ての活動を指導の場と捉え、常時指導を行う。	3	○校内外での挨拶、制服の着こなし、清掃への取り組みは全体的に良く、基本的に落ち着いて学校生活を送れており、下級生の手本となる生活態度であった。 ○不登校や相談室、保健室に来室する生徒に対して、多くの先生方に関わっていただき対応することができた。生徒にとっては、温かい言葉かけが励みになった。 ●推薦受験の許可をもらった生徒のうち、挨拶や身だしなみが良くなかった生徒もいた。 ●遅刻の改善がなかなか見られない生徒が固定化されていた。	3	
	3 自律的な自己の確立と文武両道の推進	文武連動という理念を軸に、最終学年として諸活動に主体的に取り組むことのできる行動力と豊かな人間力を持った生徒の育成	①学校行事や各種ボランティア活動に主体的に参加し、学校・地域に貢献する活動ができている。 ②部活動と学業成績が連動し、双方共に良好な結果を出すことができる。	①「文武両道」を目指し部顧問との連携を図り、学習・部活動のバランスを意識した指導を行う。 ②校内外における各種行事・活動の情報提供を行うとともに、支援体制を充実させ、主体的参加を促す。	3	○文武両道を体現できていた。数多くの部活動で、上位大会に進出している。部活動で頑張ってきた生徒が進路目標も達成することができ、これに関しても下級生の手本になることができた。 ○進路決定した後も積極的にボランティアに参加する姿が見られた。 ●部活動をしていない生徒の粘り強さが足りない。 ●部活をしていない生徒は、調査書に書くことがないので、資格取得やボランティア活動等、様々な活動に積極的に参加させる環境作りが必要となる。	4	○ラグビー部の活躍で盛り上がりました。次は野球部に期待！ ○部活動（体育系、文化系）で上位に進出しており、素晴らしい。

令和7年度 宮崎県立高鍋高等学校 年度末反省

学校経営方針（スクールミッション）

〇文武両道の精神をうたい、真善美を理想とし、師弟同行のもと、「誇り高き高鍋プライド」を追究していく学校
〇「国づくりの基本は人材育成である」という明倫堂の精神とこれまでの歴史や伝統の流れのもと、新しい時代を主体的に切り拓く人材を育成する、地域教育の拠点を目指す学校
〇学問はもちろんのこと、文化・芸術・スポーツを通じて文教の実を上げ、地域の魅力と豊かさの発掘や地域の活性化への貢献を目指す学校

本年度の重点目標

1 一人一人の進路実現に資する確かな学力の涵養 ①計画的なキャリア教育の推進に基づく、進学や就職等、自分のライフプラン実現に向けた学力の養成や資格取得等に挑戦する生徒の育成。②生徒自身が学習姿勢を改善する契機となる授業や評価の在り方についての研究。③生成AIの活用など、適切なツールを選択し学力の定着や向上に取り組む生徒の育成。

2 豊かな心の醸成と基本的生活習慣の確立 ①自他の命と人権を尊重し、互いを認め合える生徒の育成。②師弟同行のもと、環境美化や環境整備を進んで行う生徒の育成。③自然に心からの挨拶ができ、規則正しい生活習慣の確立に向き合う生徒の育成。

3 自律的な自己の確立と文武両道の推進 ①生徒が自らを求めて、学問、部活動、諸活動に取り組めるための段階的環境整備。②目標達成に向け、生徒が適切な方策・手段を模索し実践する場としての文武両道の推進。③生徒自身が自己有用感・自己肯定感を育める教育環境の整備。

4 地域に開かれた魅力と活力ある学校づくり ①児湯学友団コンソーシアム（KGC）の活用による地域拠点校としての役割推進及び児湯5町との連携強化。②地域の小学校・中学校や外部機関との積極的な連携や広報活動のさらなる充実。③PTA組織や同窓会組織との効果的かつ協働的な活動の推進。

5 教職員の資質向上 ①計画的な研修受講による各種指導力（教科指導力、生徒指導力等）や危機管理力の向上。②「明倫GP」の養成を指針とした、自走する生徒が育つ「高鍋メソッド」の確立。③同僚性・協働性・OJTの推進による教職員のチーム力向上。

評価のポイント
・自己評価の項目や指標は適切に設定されているか。
・自己評価の結果は指導等を元にした妥当なものであるか。
・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか。

評価段階
4：期待以上 3：ほぼ期待通り 2：やや期待を下回る 1：改善を要する

学年学科	学校の重点目標	各部・学年・科の重点目標 ［上の表の学校経営方針との整合］ ［各部/学年/科のミッションを念頭］	評価指標（手段・ゴールイメージ） ［ミッション（努力事項）を達成したといえる状況］	具体的な対策	学年末 評価	学年末 成果及び改善策 （〇成果あり ●次年度にむけた課題）	学校運営協議員の御意見 評価	学校運営協議員の御意見 具体的な御意見（空欄は特記なし）
生活文化科	1．一人一人の進路実現に資する確かな学力の涵養	専門科目における知識と技術の定着	①基礎基本の定着を図り、検定全員合格を目指して取り組んでいる ②1年次からのきめ細かな一貫した進路指導を行い、進路決定率100%を達成している	①検定合格のために、放課後やすきま時間を有効活用させ、技術定着の習慣化を促す。 ②生徒とのコミュニケーションを密に取り、職員間で情報を共有し、普段から相談に乗る体制をととのえ、学科全体で生徒の進路をバックアップする。 ③多様な個に対応するために、複数教師による指導・支援を充実させる。また、可能性を引き出す評価を行う。	3	○①本校3年生が「ビジネス実務マナー技能検定 文部科学大臣賞」を受賞した。これは、実務経験豊かな指導者による細やかな指導と生徒自身の意欲的な取り組みが実を結んだ結果である。 ○①個人差はあるものの、全員で検定合格を目指した学習を通して、知識及び技術が身についてきている。 ○①情報処理系での4種目1級は3名、3種目は9名が合格することができた。 ●①生徒自ら目標達成に向けた学習計画を立て、主体的に実行できるよう、意識づくり、体制作りを進めていきたい。 ○②先生方のご協力で全員が内定を頂くことができた。 ●③実習での遅れや検定合格に向けて指導を放課後等に行ってはいるが、職員数が少ないため生徒の対応に苦慮している。	4	○職員の方が少ないにもかかわらず、生徒への指導が実り、素晴らしい結果を出されたと思います。 ○生活文化科の特色をさらにPRしていただきたい。
	2 豊かな心の醸成と基本的生活習慣の確立	社会の変化に柔軟に対応でき、社会に貢献できる生徒の育成	①基本的生活習慣（挨拶・容儀・時間厳守等）が身に付いている ②学校行事や検定、専門科目への取り組みを通して自分の役割を果たしている	①日頃の挨拶や常識的な言動に関する常時指導を行う。 ②学校行事や学科独自の取り組みに積極的に参加させ、自己の役割を通してキャリア発達を実現させる。	3	●①挨拶や容儀面で気になる生徒もおり、継続的な声掛けが必要である。 ○②課題研究発表会や先輩の話を聞く会などの運営を3年生が主体的に行ってくれた。 ●②近い将来、社会人となることを意識させ、社会で通用する基本的なマナーを身に付けさせたい。	3	
	3 自律的な自己の確立と文武両道の推進	生徒の自主性・積極性の育成	①学科全体で学校行事の成功に貢献している ②家庭に関する学科に誇りを持ち、積極的に活動する生徒を育成している	①生徒の主体性や積極性を養う機会を設定する。 ②鳴海ヶ丘祭の内容を充実させる。（ファッションショーなど） ③計画的な学科集会を実施し、多くの生徒に役割を与え、経験を自信につなげる。 ④検定合格や学校行事への参加、専門科目への意欲的な取り組み、対外的な講習会や発表会、コンテストへの参加と上位入賞を目指す。	3	○①保育園へのボランティアに自主的に行く生徒が増えた ●①授業での学びをさらに他者に貢献できる場を設定していきたい。 ○①3年生は文化祭を通して、協調性や試行錯誤する力を身につけ、クラスが一つのチームとして成長する姿を見せてくれた。 ○③学科行事において、限られた生徒だけでなく、多くの生徒に活躍の機会を与えることができた。 ○④昨年度と比較して、各種コンテストに応募する生徒が増加した。 ○④コンクール募集を通して、学びを深めることができた。	4	
	4 地域に開かれた魅力と活力のある学校づくり	地域に信頼される魅力ある学科へ	①学校説明会・オープンスクール・HP等で積極的な学科PRをしている ②地域との連携を強化している ③中高連携を計画する	①学校説明会、オープンスクール、鳴海ヶ丘祭などを通して、学科の魅力を機会あるごとに紹介する。 ②HPの更新を通して、地域や小中学校に向けて活発な学科の取り組みを発信する。 ③外部講師招聘事業の内容を充実させ、新たな取り組みを開拓する。 ④専門学科の特色を生かした中高連携の取り組みを実施する。	2	●①来年度に向けて、学科のPRをどのようにしていけばよいか検討する必要がある。 ○②魅力科にご負担頂いてインスタ等に情報をあげていただいた。 ○③多分野において学外の講師や団体の協力を得ることで、専門的な視点からの学習につながった。 ●④中高連携の取り組みは、実施することが出来なかった。 ●④小中学生や地域の方へのPR活動を今後さらに充実させていきたい。	3	
	5 教職員の資質向上	専門性を高める効果的な授業の研究	①専門的な知識・技術を学ぶ研修への参加している ②効果的な授業の研究をしている	①積極的な研修会参加や自主研修を行う。 ②生徒の実態に合った効果的な授業のために、改善や研究を行う。	2	○①家庭科技術検定実技評価講習会等に参加し、指導方法や評価について確認するよい機会になった。 ●②授業改善や準備を行う時間を確保することが難しい現状である。 ●②学科として生徒に充分な学びを行いたいが、職員数が確保されておらず、検定指導や行事運営に苦慮している。 ●②学科として責任ある指導体制を確立し、実習における安全管理や緊急時の対応を万全にするため、常勤の正規職員の確保が不可欠であり、最重要課題である。 ●②職員数に対する持ち科目数が多く、内容が多岐に渡っているためマンパワーに頼っている現状であり、勤務時間内での充分な授業準備が難しい。	3	
探究科学科	1 一人一人の進路実現に資する確かな学力の涵養	①進路を達成するための学力を、自ら学び定着できる生徒の育成。 ②基礎学力とともにハイレベルな思考力・表現力を身につけた生徒の育成。 ③自らが進むべき道や役割を見つけ、その達成に向けて学び続けることができる生徒の育成。	①自学自習力が定着している。 ②基礎学力とともにハイレベルな思考力・表現力を身につけている。 ③自らが進むべき道や役割を見つけ、達成に向けて学び続けることができる。	①生活の記録、個別端末等ICT機器を活用し、生徒自らが計画的に学習に取り組むことができるようサポートを行う。 ②学科独自の各種学習会の充実。 ③高大連携をはじめとした外部機関との効果的な連携、探究活動の支援や講演会の実施。	#	○宮大のデータサイエンスⅡを7名受講申し込みして動いている。 ○思考力、表現力を身につけてきている生徒もいる。 ○3校合同学習会の開催など、学習に対する意識を向上させる取り組みを行った。 ○朝の応用講座、放課後の基礎講座を実施し、学力向上のサポートを行った。 ●自学自習力を高めるようなサポートが十分ではなかった。 ●Classiによる学習時間の記録が徹底できなかった。 ●進路実現に向けた適宜適切な助言や面談等が不十分であった。	3	
	3 自律的な自己の確立と文武両道の推進	①学科での学びや、友人達との関わりに誇りを持つ生徒の育成。 ②地域や社会全体の諸問題や矛盾に気づき、他者と協働しつつ解決しようとする生徒の育成。	①生徒主体となり積極的な学科PRをしている。 ②地域や社会全体の諸問題や矛盾に気づき、他者と協働しつつ解決を図ろうとしている。	①学校説明会やオープンスクール、Instagram等、生徒が活躍できるようなプログラム設定を行う。 ②探究活動や学校設定科目を通して、地域や社会の課題と向き合い、自分事としてそれらに向き合わせるためのカリキュラム設定。	#	○しっかりとしたカリキュラム設計が為されている。少しずつ生徒や時代に合わせて改変しているので、目標と行事などがマッチした形になっている。 ○自ら考え動くことができる生徒がいる。 ○探究活動に熱心に取り組み、全国や県の大会の予選を複数名突破するなど、成果を上げている。 ●タブレットの貸し出しがなくなったことで、Instagramの更新が滞った。 ●もっと外部に取り組みをPRできるといい。	4	
	4 地域に開かれた魅力と活力のある学校づくり	①自分の役割を見つけ、果たすことのできる生徒の育成。 ②地域のイベント等に積極的に参加し、地域のリーダーとして活躍しようとする生徒の育成。	①学校行事をはじめ、部活動や生徒会活動、探究活動への取り組みの中で、自分の役割を果たしている。 ②地域のイベント等に積極的に参加している。	①校内外イベントへの参加呼びかけ。 ②生徒会活動への積極的な参加の支援。 ②学科行事や探究活動における、学科内での繋がりの強化。	4	○学校行事や生徒会活動、各種ボランティアや講演会への参加者は増えた ○生徒会活動や探究活動、地域のイベント等積極的に参加している。（月市や令和明倫堂塾など） ○課題研究発表会においては、1，2年で協力しながら行うことができた。 ○2年生から1年生へ、探究活動のアドバイスを行った。 ○自ら考え動くことができる生徒がいる。	4	○地域・高鍋農業・事業所とのコラボが大変好評です。継続していただきたい。 ○高鍋町以外の地域のイベントや交流も増えているのでしょうか。